南部アフリカ地域感染症対策事業モニタリング　OJT 出張

大阪赤十字病院　９B 病棟　看護師　鄭恵梨

南アフリカ赤十字のキッズクラブに通う子どもたちと

世界の HIV 感染者の総数は 3,670 万人。
そして、毎日 5,000 人が新たに HIV に感染していると言われています。[1]

世界の HIV/AIDS 有病率（全人口に対する HIV/AIDS とともに生きる人々の割合）をリストにすると、上位 1 位から 9 位[2]まですべて南部アフリカ地域の国々です。
日本赤十字社は、2010 年から HIV/AIDS に関する感染症対策に焦点を置き、南部アフリカ地域を支援しています。

2017 年度はその中でも、南アフリカ、ナミビア、スワジランド、マラウイ、ザンビアの 5 か国を支援。
今回、南アフリカ、ナミビア、マラウイを訪問し、事業の進捗状況を確認するためのモニタリング出張に参加したため、その様子をご報告します。

南アフリカの移動式 HIV テスト

新たな HIV 感染者数が最も多い南アフリカ。
南アフリカ赤十字社が提供しているのは移動式の HIV テストです。
月曜から金曜まで、毎日場所を変え、赤いテントを立てて人々が集まる場所で開催しています。
南アフリカでは、地域のクリニックで誰でも HIV テストが受けられます。しかし、近所の目などを気にする若い人々には地域のクリニックよりも少し家から離れたところで開催される移動式 HIV テストのほうが好まれ、ニーズが高いそうです。
テストはプライバシーを保つために、テントの中で実施されます。
検査結果が出るまでおよそ 10 分。その間も、貴重なカウンセリングの時間です。HIV に関する正しい知識、そして安全な性交渉についてのレクチャーがカウンセラーによって実施されます。

南アフリカの移動式 HIV テストの前でコンドームを配布する赤十字ボランティア　→

---

[1] UNADIS Data book 2017
[2] 1 位スワジランド（27.20%）、2 位レソト（25.00%）、3 位ボツワナ（21.90%）、4 位南アフリカ（18.90%）、5 位ナミビア（13.80%）、6 位ジンバブエ（13.50%）、7 位ザンビア（12.40%）、8 位モザンビーク（12.30%）、9 位マラウイ（9.20%）

移動式 HIV テストのテントの中

「HIV 陽性」と結果が出た場合、多くの人が呆然とし言葉を失うとカウンセラーが教えてくれました。少ししてから「心あたりがあったんだ…。」と話しだす方もいれば、「もう一度テストをしてほしい。」という方もいます。
カウンセラーの方は、「何も症状がないため、HIV 陽性だと分かってもしばらくは病院に行かない人が多い。近所の人々に HIV だと判明して差別されるのではないかという恐怖心や、実際の HIV/AIDS に対する偏見が治療の遅れや中断に大きく関与している。だから、必ず後日にフォローアップを行っている。」と話します。

マラウイのヤギの受け渡し事業

世界の中でも最も貧しい国のひとつ、マラウイ。
タバコの葉やとうもろこし、大豆などの農業が主要産業の国ですが、ここ数年の干ばつが人々の生活を逼迫しています。

マラウイ赤十字社では、HIV 感染者の方を対象に「Goat pass on（ヤギの受け渡し事業）」を行っています。HIV 感染や HIV/AIDS で親を亡くして孤児となった等の理由で生活に困窮している人々を対象にヤギを配布。
ヤギを受け取った方々は、ヤギを交配させて増やします。赤ちゃんヤギが生まれたら、お母さんヤギを次のメンバーに渡します。こうすることで、地域でヤギを所有する人々が増えます。ヤギを売れば現金収入が得られ、また、ヤギの糞はとても良質な肥料となるため、畑での収穫量増加に貢献し、生計が向上するという仕組みです。

タバコの葉を収穫し、干すマラウイの人々

小屋のなかにいるヤギ↑

←ヤギを受け取った受益者の方とヤギの小屋
小屋の作り方も教わって、手作りされます

HIV 感染予防のためには、保健や医療的な介入が不可欠ですが、人々の生計が成り立つことも大切です。貧困のため、売春をせざるを得ず HIV に感染してしまう若い少女たち。教育を受けられないことによる識字率の低さや知識不足から避妊や HIV 感染予防の方法を知らずに感染してしまう人々。これらにアプローチするため、生計支援のほかに学費支援やキッズクラブ（学童保育）など保健医療に限らない全体観的支援が行われています。

マラウイのチャイルドケアに通う子どもたち、車のバンパーに写る自分たちの顔に興味津々！

チャイルドケアで提供されるお粥を食べる子どもたち

ナミビアの地域ボランティアによる家庭訪問

日本の約 2 倍の国土を持つナミビア。中所得国に分類されますが、人口は 247 万人と少なく、人々の貧富の差が激しいのが特徴です。

ナミビアの不法居住地に暮らす方の家々

不法居住地にビニールシートで作った家で生活している人々を尋ねました。
街から出るごみを拾って生活しており、食糧もごみの中から得ています。
出生証明書や身分証明書がない人々や、未就学の子どもたち。
ナミビア赤十字社の地域ボランティアが家庭訪問をし、HIV 陽性の方の治療継続のサポートや避妊方法のレクチャーなどを実施。しかし、人々の思考や行動はそう簡単に変化しません。学校に行きたくない、今の生活でとても幸せだと笑顔で話す人々を見て、わたしたちの支援はこちらの一方的な押し付けなのか…と不安になります。

その後、テント生活の 1 か月前に出産した女性を訪問。一人目の子どもを自宅出産で亡くした過去があり、今回は 2 回目の出産。赤十字ボランティアはその情報を得て、今回の出産は病院でしてはどうかと家庭訪問を続けました。そして、病院で出産。母乳栄養で育っているその赤ちゃんは、来月にはクリニックに検診を受けに行く予定だそうです。

ナミビア赤十字社の事務総長が、「人々の生活に少しの違いを生み出したい。」と話していたのが心に残っています。少しの違いが、年月を経て大きな変化となり人々の健康・生活が向上することを願ってやみません。

2018 年も日本赤十字社はこの支援を継続していきます。
皆さまからのご支援・ご寄付に感謝申し上げるとともに、南部アフリカ地域に生きる少年・少女たちが新たな HIV 感染者となることなく毎日を過ごせるようにさらなるご支援・ご理解をお願い申し上げます。

マラウイの子どもたち

ナミビアのテントで暮らす男の子と

ナミビア赤十字の地域ボランティアの皆さんと受益者の男性（手前の腰かけている男性）にインタビューする様子